

倉敷芸術科学大学紀要

創刊の辞

倉敷芸術科学大学 学長 谷 口 澄 夫

今春4月に岡山県倉敷市に産声を上げました倉敷芸術科学大学は、関係諸氏、教職員各位及び学生諸君、まさにすべての者が一丸となって力を合わせ、二十一世紀に輝く芸術と科学の「文化の殿堂」を目指して、一日一日と着実な前進をしております。またこの前進にあたりましては、地元倉敷市と岡山県の温かいご支援ご協力に負うところ大なることを特筆せねばなりません。

本学は芸術・産業科学技術・教養の三学部からなり、芸術学部は西日本の芸術の都倉敷にふさわしく美術学科・工芸学科、また産業科学技術学部は当地の水島臨海工業地帯を控えてソフトウェア学科・機能物質化学科、さらに教養学部は総合的な知識と技術修得を目指す教養学科を備えております。三学部ともに二十一世紀という新しい時代の中で、真に豊かな人間性を持ち、創造的かつ高度な専門的知識と技術をもって、地域社会への貢献はもとより、さらに世界に飛翔する国際感覚豊かな人材を輩出することをその目標と致しております。

この目標を達成するにあたり、本学では、新時代に向けての長期展望をもつての教育・研究プログラムを画し、先進的施設・設備、また環境整備等に努めておりますが、さらにこの目標達成にあたりましては、それぞれの分野における優秀な教授陣をもってこれに臨んでおります。

この度、本学の教職員一同によって、『倉敷芸術科学大学紀要』の創刊号を発行できますことは、誠に喜びに堪えない次第であります。教職員各位のそれぞれの専門分野における研究への、今後一層の熱意と優れた成果を期待致しますとともに、その研究成果の発表の場として、この研究紀要が将来ますます充実し、大いに発展の一途をたどりますよう切に願って止みません。ここに創刊されます『倉敷芸術科学大学紀要』が、地域社会は言うまでもなく、広く内外の芸術の創造と諸科学の研究成果として大いに有意義なものであり、またこれが先覚的かつ優れた「知識と技術の発信源たる学術研究機関誌」となることを祈念致します。

1996年2月1日